

絹本著色観経説法図(長宝寺) 1 幅

絹本著色観経説法図

けんぽんちゃくしよくかんきょうせっぽうず

分野／部門

有形文化財／美術工芸品[絵画]

所有者

宗教法人 長宝寺

所在地

大阪市平野区平野本町 3

紹介

法量：縦 137.3cm×横 60.4cm



長宝寺に伝来する仏画の 1 つである。釈迦と二声聞(しょうもん)を中央に、釈迦の足元には韋提希夫人(いだいけぶにん)と童子形の従者を描く。釈迦の頭上には阿弥陀浄土をあらわしている。観無量寿経(かんむりょうじゅきょう)の序に描かれる、釈迦が韋提希夫人に説法する場面を絵画化した画像で、全国的にも類例をみない。制作年代は鎌倉時代末にさかのぼると考えられる、市内に残る非常に古い年代の仏画である。

用語解説

声聞(しょうもん) 「教えを聞く者」の意味で、仏弟子のこと

韋提希夫人(いだいけぶにん) 古代インドのマガダ国王ビンビサーラの後。子のアジャータシヤトルに幽閉された時、釈迦に教えを請うたので、釈迦は「観無量寿経」を説き浄土往生の道を示したという